令和８年（2026 年）10 月 21 日（水）

愛媛県今治市

【市の概要】

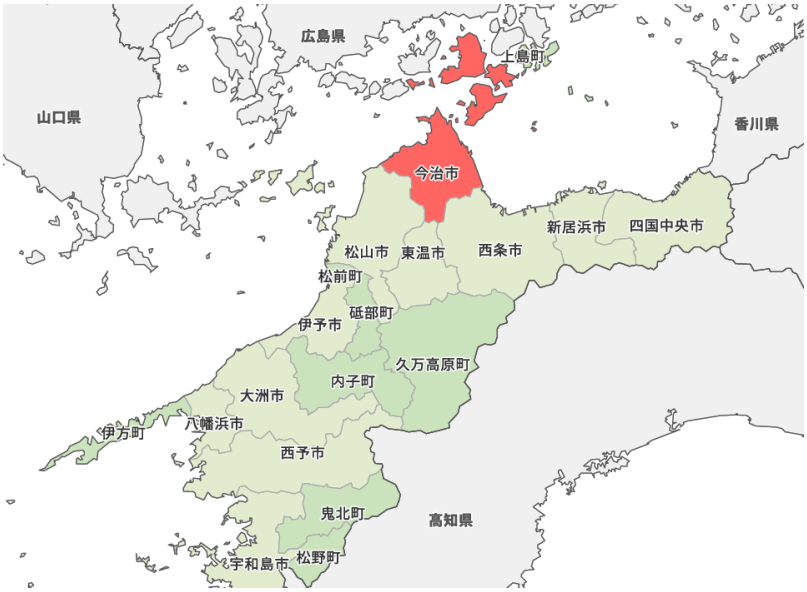
面積：419.21 ㎢

予算：853 億円（R8 当初予算）

人口：144,356 人（R8.8.31 時点）

市章

（瀬戸内海の自然と来島海峡としまなみ海道を表す）



愛媛県今治市は、1600 年（慶長５年）以降に今治城と城下町ができていく中で都市の基盤が築かれ、その後時代が変わるごとに合併や編入を繰り返し、平成 17 年に 12 の市町村が合併して人口 18 万人の都市として現在の形になった。その後 20 年間で人口が約 36,000 人減り、人口減少は市の大きな課題の一つとなっている。

港を中心とした商業都市であり、繊業から発展したタオル、縫製、造船などが基幹産業として発展し続けている。瀬戸内しまなみ海道（西瀬戸自動車道）の開通により中四国の交流・流通の拠点となっており、また、自転車で島々を渡れることから「サイクリストの聖地」とも呼ばれている。国内での造船建造集積数は約２割を占め、日本の海運企業が所有する外航船の約４割を今治の船主が占める、造船・海運都市。公園や市立施設が老朽化などで解体される中、市が所有する土地に MICE（国際会議や展示会などが行える、人が集まるビジネスの大規模拠点）の建設を求めて船主から寄付が集まるなど、地形や産業を活かした地域づくりが進められている。

≪視察内容≫

■日時　　：2026 年 10 月 21 日（水）14：30～16：00

■場所　　：今治市役所　（愛媛県今治市別宮町 1－4－1）

■視察目的：

杉並区では 11 月の区立児童相談所の開設以後、児童福祉に関するあらゆる事業を所掌することとなるため、これまでに展開してきた「妊娠期からの切れ目のない子育て支援」を一層充実させるチャンスである。子どもの権利を基盤とした施策の連携が求められていることもあり、今回、令和 4 年度から「こどもが真ん中」を基本理念として妊娠期から 18 歳までの子どもがいる家庭を対象とした「今治版ネウボラ」を推進してきた今治市を訪れ、保健・福祉・子育て支援・発達支援を一体的に提供する体制の整備と、多職種による伴走型支援について学んだ。また、相談支援に加え、子育て世帯への経済的支援や地域特性を踏まえた独自施策を展開している点にも注目し、支援の幅を広げることも検討したい。

■視察内容：

「ネウボラ」とは、フィンランド語で「アドバイスを受け取る場所」「助言の場」という意味。

妊娠期から 18 歳までの切れ目のない子育て支援体制を構築し、どこで何を相談できるのかを迷うことなく、安心して子どもの育ちに向き合える環境として行政が公的に開く場所。

―――経緯―――

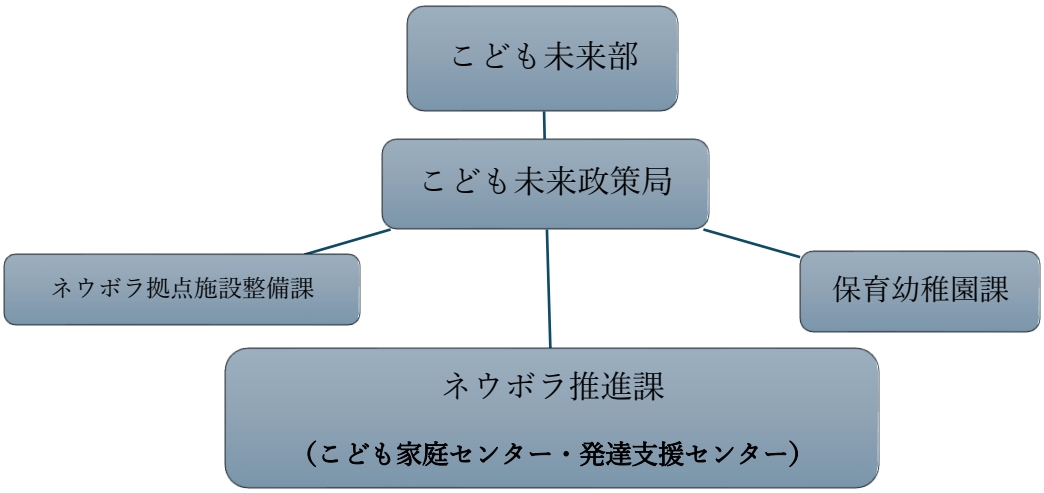
2021 年の市長選挙で初当選した現市長の一丁目一番地の政策として掲げられていたのが「ネウボラ」であった。また、職員も子育ての相談・支援のあり方に課題を感じており、行政の縦割りの問題を解消するための仕組みづくりに向けたプロジェクトチームを職員自らがつくっていた。

行政内部での議論が深まり、2022 年 4 月、こども・子育て支援の司令塔となる機能強化を目的とした**こども未来部**が創設された。同時に、相談機能のワンストップの実現を目指し、母子保健・児童福祉・発達支援を集約した**ネウボラ政策課**も新設される。ここから 4 年間で、こども家庭センターに各種専門職を配置し、伴走型支援体制を充実させるとともに、ワンストップの総合的支援を実現した。

2026 年度以降はネウボラ政策課が**ネウボラ推進課**となり、また、遊びと相談を一体的に保障する拠点施設の整備に向けた準備を進めるために新たに**ネウボラ拠点施設整備課**が設置されている。

―――体制―――

○組織



○専門職の配置

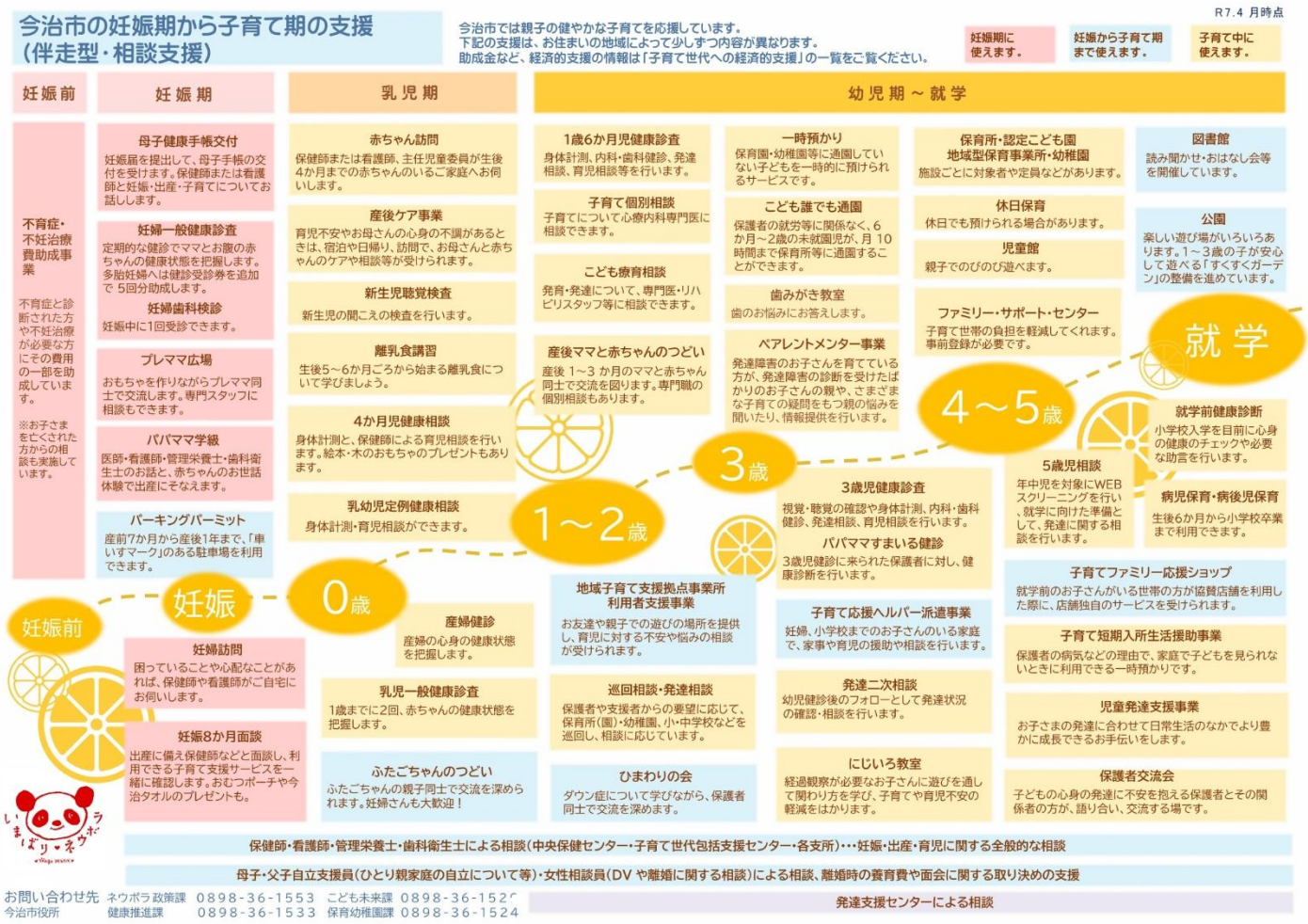
【こども家庭センター】保健師、看護師、保育士、社会福祉士、教員 OB、女性相談支援員、母子・父子自立支援員

【発達支援センター】 保健師、保育士、教員 OB、心理士

ヤングケアラー、家庭の自立、DV、発達相談、妊娠 SOS などが一つの窓口で相談でき、複合的な課題にも対応できる体制を構築している。

―――事業内容―――

○伴走型・相談支援



ネウボラ推進課

・妊娠８か月面談（R4～）

…専門職の面談時に、今治タオルのフード付きバスタオルなど「こども真ん中ギフト」をプレゼント

・子育て応援ヘルパー派遣（R5～）

…妊婦および乳幼児家庭の家事を担うヘルパーを自宅に派遣（年 30ｈ）、母子手帳交付後 5h 無料

・5 歳児相談（R5～）…四国で初めて、WEB システム『ここあぽ』を活用した相談フォロー体制を整備

健康推進課

・パパママすまいる健診（R5～）

…3 歳児健診の対象児の父母が来所する機会に合わせて、保護者の健康診断を無料で実施するもの

今治ブランド戦略会議

・プレママ・プレパパセミナー（R6～）

…ふるさと納税を活用し、出産を迎えるママ・パパが安心して子どもを迎えるためのセミナーを実施

〇経済的支援



ネウボラ推進課

・不妊治療費用助成（R4～）

…愛媛県と今治市での共同の助成に市でさらに上乗せする形で、保険適用となる避妊治療への全額助成を実現。治療された方の４割が妊娠に至る成果が得られた。（流産などもあるが…）

・出産サポートタクシー利用助成（R6～）

…健診及び出産のために利用した全７回分の利用料金を助成

・出産世帯奨学金返還支援（R6～）

…出産した世帯の夫婦が返還している奨学金を、子どもが一人生まれる度に２０万円を上限に助成。当初は夫婦二人に２０万円ずつだったが、今年度からは生まれた子どもの人数で決めている。

・子どもが真ん中応援券（R7 年度に拡充）

…子ども一人当たり１８万円（３５歳以下の夫婦は２０万円）のデジタルクーポン（PAYPAY）を交付。県の補助事業も活用し、第２子以降は５万円分のおむつ券も追加される。

しまなみ振興課

・しまなみの子どもを育む交通費支援（R4～）

…島しょ部に住所登録があるものに対し、しまなみ海道の通行料金を助成。

サイクルシティ推進課

・自転車用ヘルメット購入補助（R5～）

…未就学児の保護者にヘルメット購入費用の半分（上限 3000 円）を助成。

・中学校就学前自転車等購入クーポン（R5～）

…小学校６年生の保護者に１万円分の自転車等購入クーポン券を交付。

ネウボラを推進していく中で、以上のように、相談体制でも経済的支援でも、こども未来部だけではなく他所管の事業も含めて人口減少に立ち向かう市全体の取組が進められてきている。

〇その他の取組

保育幼稚園課

・島のこども園体験留学（R7～）

…今治市内に一時滞在する家庭の３歳から就学前の子どもを対象に、こども園での受け入れを行う。コロナ以後、２拠点生活やワーケーションを行う人が増えていることも踏まえて市独自で企画。

ネウボラ推進課

・土曜日・長期休暇中の早朝一時預かり（R7～）

…児童クラブ（学童保育）の開始時間前に児童を預かり、時間になったら送り出す体制の整備。

・ヤングケアラー支援ヘルパー派遣（R5～）

…主に学校からの相談を受けて、子家センからアプローチを行い、対象と認められた児童の家庭にヘルパーを無料で派遣するもの。介護や障害福祉の事業所に委託をしている。

・こどもが真ん中フェスタ（R4～）

…今治商店街にて、楽しい遊び場だけでなく、学びや相談の場があり、親子で楽しめるイベントを開催。ネウボラ推進課を中心とした「こどもが真ん中フェスタ実行委員会」が主催し、今治商店街協同組合が協力、地元の企業や団体が協賛する形で運営されている。

「ウッドスタート宣言」と木のおもちゃ美術館

2024 年６月、今治市と東京おもちゃ美術館が「ウッドスタート宣言」を発出し、豊かな文化と自然を持続可能な形で次世代に引き継ぐ取り組みを推進。生まれた子の４か月健診で木のおもちゃ（R8 夏以降は、今治の魅力を表現したオリジナル積み木）を贈呈している。また、東京おもちゃ美術館を運営する認定ＮＰＯ法人芸術と遊び創造協会が総合監修し、イオンモール内に民説民営の**しまなみ木のおもちゃ美術館**を開設。運営はＦＣ今治のオーナーである株式会社今治.夢スポーツで、140 人の地域ボランティアの協力により成り立っているとのこと。

今年の５月には「全国植樹祭」の愛媛県開催のサテライト会場として、そして来年 2027 年１月には、林野庁が補助を出している「木育サミット」が、木のおもちゃ美術館を会場として開催される予定となっている。

また、結婚及びパートナーシップ宣誓に際して、記念樹の苗木がもらえる事業が以前から行われており、市民参加による緑豊かなまちづくりの推進に向けた取り組みの連携が進んでいる。







今治市の子育て情報ポータルサイト『いまこそ imabari』

婚活、妊娠・出産、子育て、子ども自身の悩み相談も含めた総合的な情報サイトを今年３月に開設。乳幼児期の子育てだけでなく思春期の保健に関する相談など、生まれる前から成人までの子育てが意識された造りとなっている。また、特集や体験記なども掲載されている。毎年５～６月に開催されている「転入者さん！いらっしゃい！」という移住して子育てを行う方々の交流イベントの体験記や、ネウボラの事業として島しょ部に開設された「子育てひろばしましま」において、国籍や障害などで立ち上がってくる言葉と関係性の壁を越えて、育ち合える地域社会を目指して行われている事業が紹介されるなど、孤立しがちな中で「自分に向けて発信されている」と思えるコンテンツが多数あることも重要な点である。

ネウボラ拠点施設整備

2030 年の運営開始を目指し、PFI 法に準じた DBO 方式（設計・建設・運営を一括して民間事業者に委託する官民連携の手法）を用いて建設が予定されているネウボラ拠点施設整備事業。相談・遊び・学び・交流などの機能を一つに集め、妊娠期から 18 歳までのこどもと子育て家庭に切れ目なく寄り添う「今治版ネウボラ」の中核となる施設を目指している。

公園・小学校・駐車場など、既存の公共施設が統廃合などによりできた土地を活用する。本体施設は 5532.2 ㎡、駐車・駐輪スペースは 4482.7 ㎡の予定となっており、こども家庭センター、発達支援センター、保健センター、ファミリー・サポート・センター、児童センター（遊戯室、図書・学習スペース等）、地域交流センター（多目的室、小ホール、音楽スタジオ、カフェ等）の機能を包括する予定。契約金額は 90 億 8600 万円となっている。

この拠点施設をハブに、市内全域に広がる既存の「相談・遊び場・育ち」のサテライトと、人・情報・支援を結ぶことで、まち全体でこどもの成長と子育て家庭を支える環境を整えていくことを目指す。

相談サテライト　…　児童館（７）、学校（２６）、保育所（４７）、地域子育て支援拠点（１１）

・子育てひろば　ハピ（イオンモール内）…0～3 歳までの遊び場と、専門職による相談窓口を併設

・子育てひろば　しましま（伯方島）…島しょ部初となる拠点として、元保育所を改修してつくられた

相談の拠点として公立の保育所だけでなく私立保育園にも担い手になってもらい、孤立を生まずに地域全体で子育てをしていく体制を目指している。現在は各保育園のやり方にほぼおまかせしている状態になっているため、公民の連携をより深めるための意見交換の場を、これから設けていく。

また、今後児童センターができるにあたって児童館は１つ廃止され、アウトリーチ専門のチームがつくられる予定。



遊び場サテライト　…　公園（９２）　公園はすべて子どもたちと一緒につくりました、との説明あり。



育ちのサテライト　…　公民館（２９）、図書館（４）

・小中学生が放課後や夏休みなどの長期休暇に気軽に集まれる場所として、公民館を開放している。高校生が放課後過ごす場所がない！という要望も多数あり、これからさらに検討を進めているところ。

・読み聞かせ会の開催や、現役・OB 教員による夏休みの課題学習お助け会、中学生の職業体験など、こども一人ひとりの育ちをサポートする企画を図書館で行っている。

―――成果と課題―――

〇成果

・『日本子育て支援大賞』を受賞。さらに『住みたい田舎ベストランキング』でも４年連続で４冠を達成するなど、子育てしやすいまちとしての認知度はかなり高まっている。

・５年間で「ネウボラ」がかなり浸透し、「ここに相談すればいい」ということが明確に市民に認識されており、相談支援のワンストップ化、という目標は達成しつつある。

・就学前と学齢期との切れ目についての課題がより明確になり、子家センを中心にこれを切れ目としないための施策を検討している。

〇課題

・18 歳以降の若者への支援が新たに大きな課題として見えてきている。経済的・教育的な支援へのニーズは高く、若者の市外流出などを防ぐ取り組みとしても必要性が高まっている。

・女性が安定して正規雇用で働ける環境が少なく、高等教育への進学などで一度市外に出た女性たちが戻ってこない。今治市の産業は家族経営のところも多く、女性は特にパートタイムでの雇用となってしまう率が高い。

・移住者が増えている一方で、高齢化による自然減が加速していることもあり、2050 年には人口が 10 万人台になることが推計される。2050 年以降にそれ以上の減少にならないよう、子育て支援の質を高めつつ、あと 25 年間でより「選ばれる自治体」を目指した環境整備について協議を進めている。

■所感

今回の視察を通して、都心部と地方都市とで課題になることの違いも認識した一方、「子どもの育ちを支えていく」ということに関して課題となることは共通であると改めて感じています。子育ての孤立を防ぎ、子どもたちの豊かな遊びと学びを支える仕組みを、地域全体の取り組みとして所管を超えて進めていくことで、市全体で変化を実感する結果につながっていることがわかりました。

杉並区も子どもの権利条例を基軸とした取組が区全体で進んでいますが、区立児童相談所の開設で相談・支援の枠組みが強固になる中で、「切れ目なく」子どもの育ちを支えていくことについて、改めてその体制づくりを庁内全体で議論していくことも必要であると考えられます。これからの地域社会を担う子どもたちに豊かな文化と自然を引き継いでいく取り組み、ぜひ参考にしたいところです。



